



12月定例市議会 戸沢ひろゆき議員の一般質問

昨年12月定例市議会で日本共産党の戸沢ひろゆき議員は、次のような市民要望を質問しました。

市民の暮らし優先の 新年度予算編成について

景気の低迷と雇用不安、社会保障の改悪により先行き不安要因があるため、市民の購買力が冷え切っている。新年度予算において、市民の暮らし応援の政治姿勢が強く求められている。予算確保及び税収入の見通しと新年度の重点施策として ①法人市民税の見通しは ②普通交付税と特別交付税を増やす努力は ③土地開発公社の草花南小宮の土地を買い戻し市営住宅を集合化する計画については ④普通財産の処分についての見通しは ⑤市民の暮らし応援に対する重点施策はと5点の質問をしました。

市当局は、①の質問に、平成20年度、21年度と調停額は2割を超えて減少している。今後の見通しは慎重に判断する。②の質問に、全国知事会等に於いて地方財政・地方交付税の復元めざした意見・提言をおこなう、動向を注視する。③の質問に、老朽化した木造市営住宅9団地の統合し、建替え住宅の基本設計、敷地測量をし平成23年は敷地造成、土地開発公社から土地の買戻しを予定している。26年度に既存の住宅者の移転を予定している。④の質問に、土地の下落傾向にあり、動向を注視し、処分の時期を見極めていくと答弁しました。⑤については次のような回答をしました。

生活保護一級地への引き上げを

あきる野市は生活保護の支給金が2級地のため、平均すると1級地と比べると支給額が平均的な家族で年間約11万円低いのです。市は、5月に東京都を通じて厚生労働省に引き上げるよう要望していると答弁しました。市議会で1級地にすべきだと意見書を採択し厚生労働省に提出しましたが、日本共産党市議団が提案していたものです。

育英資金、就学援助について

在校生に周知徹底している。教育委員会窓口でも年度途中でも対応しているとの答弁でした。

介護ボランティアチケット 制度について

稲城市などにおいて「介護ボランティア制度」がある。介護保険制度では1人暮らしのお年寄りや高齢者夫婦を見守る仕組みがない。地域での介護ボランティア活動の仕組みづくりが求められている。そのためにも「介護ボランティアチケット制度」をつくってはどうかの質問に対し、市は東京都内で10区6市で実施されている。登録人員が少なく受け入れ施設とマッチングが難しい。今後、引き続き情報収集し検討したいと答弁しました。戸沢議員は、大阪府吹田市の「いのこの里」の進んだ経験を発表し、大いに研究するよう求めました。



入浴サービスへのボランティア活動

市民検診の充実を

今までの市民検診制度から、予防・メタボなどの生活指導が重点となり、検診内容が不十分です。市民の健康管理と健康診断に対する考えを問うと、市は、特定健康診断の検査項目は基準の下、医師が必要と判断したものを選択し「詳細な項目」として心電図、眼底検査などがある。35歳から39歳までの市民を対象に生活習慣病予防検診を市は独自に行っており生活習慣の改善を主眼として健康管理していると回答。

戸沢議員は、特定検診という名で検診内容をカットするのは、早期発見を見誤る原因となるので元の検査内容に復活すべきだと強調しました。

一般質問の様子はインターネットでも見られます。

あきる野市議会 議会中継 で検索!

——法律相談——

1月19日(水) 13:30~15:00

みなさんのご意見・ご要望をお聞かせください。
jcp-akiruno.com/ 558-1134